

# 町並み月報

■平成20年9月25日（第50号）

■発行責任者 澤口輝禪

## 小浜西組町並み協議会 第2回 役員会報告



日時：平成20年7月29日（火）午後7時30分～午後9時

場所：町並み保存資料館 1階

出席者：役員21名のうち、出席11名、委任状7名により、会が成立

### 1、会長挨拶の後、議長に野村事務局長が就き、議事進行

### 2、市よりの報告

- ・7月22日に市の保存審議会が開かれた。今年度は補助申請が18棟あったが、そのうち3棟が来年度の補助対象として承認され、今後県と国へ申請する。

- ・小浜公園内に重伝建地区を明示した看板を建てるため準備中。（資料で説明）  
飛鳥、香取区長のと承も得ている。

- ・過日、関西電力の社員と重伝建地区の電線の地中化について現地調査し、話を聞いた。それによると、街路に歩道が無い為、完全地中化は難しい。熊川宿のように一部を地中化し、他を建物背後に電柱を持っていくソフト地中化の方法もあるが、住民の理解を得るのがむずかしい。地中化しなくても、

今の電線で道路を横断しているものなどを整理したり、電柱の色を町並みに合わせるなどする方法もあるとのことだった。どのようにするか、地元で検討してもらいたい。



小浜公園に設置された看板（9月9日）

### 3、議 題

#### (1) 重伝建選定記念イベントの件

澤口会長より「秋に、これまで西組の重伝建問題にかかわってきた日向先生に講演をしていただくことを中心にイベントを催したい」との提案があり、承認された。

石田副会長にイベントの責任者になってもらうことを承認。

#### (2) のぼり旗の件

野村事務局長より、のぼり旗のデザイン、経費見積の結果などについて報告があり検討した。その結果20枚作成し、各区1枚及び町並み資料館などに立てることで承認。

#### (3) 後瀬山歴史街道マップ改訂の件

石野副会長よりの報告・・・現在、絵の修正部分を描いてもらっている。また、裏面の解説文を簡略化するため検討している。

現在、(市を通じて)県へ補助金の申請中なので、補助金の有無によって発行部数を決めたい。

#### (4) 月報市外発送分の郵送料の件

・石野副会長よりの報告・・・現在、小浜西組以外の居住者に59通を毎月郵送しているが、そのうち45通については、今後3カ月ずつまとめて郵送したい。それによって郵送経費の削減をしたい。

・検討の結果、石野副会長の提案を承認した。

#### (5) 各区での町並み協議会委員会開催の件

澤口会長より提案・・・各区の住民の方々の意向をもっと取り入れたいので、各区の町並み協議会委員で会合を開いて話し合いをしてもらいたい。議題としては、

・修理・修景についての疑問点やわからないこと。

・街路整備（道路舗装のグレードアップ、融雪装置、電線の地中化、防火体制の充実など）で、行政に要望したいこと。

・災害時において、二方向以上の避難口が確保されているか。

等々の点について話し合いをし、その結果を役員会で報告してもらいたい。

#### (6) その他（省略）

### 4、閉会の辞 石田副会長

# 小浜を訪ねて

千葉県君津市在住 新井孝男

## 学生のころからあこがれていた小浜行きが実現

かねてよりあこがれていた小浜行きが、友人の福村夫妻の計らいで実現した。

(福村様の奥様の生家が飛鳥区の佐竹邸)

小浜駅からタクシード「三丁町」へ。町家存続と復元とは聞いていたが、そこは全く別世界。個々の家ではなく、町並みそのものが、<sup>かいわい</sup>界隈一帯がまさに伝統的な姿を残し、まるで近世にタイムスリップしたような感覚をもった。しかも、どの家にも人の気配と生活感がある。手に案内図を持って、いくつものグループが歩いている姿が目に入る。これもちりとてちんの影響が・・・。

## 飛鳥佐竹邸に宿泊・町家再生のシンボルの存在



福村夫妻のご尊父佐竹吾郎氏とその家族の思いがこもった佐竹邸に着く。なにより驚いたのは、道路に面した各家がまさに切れ目なく軒を連ねていること。互いの屋根を共有している姿である。お隣さんへのご挨拶やご近所周りを経て、宅内に落ち着く。まさに「落ち着く」という言葉がびっぴりたりの空間。決して広くはないが、1階、2階とも各二部屋、その間に<sup>まど</sup>靴の間とも言うべき板張りの空間がある。中庭が配され、部屋から見る植木のみどりは格別の味わいである。福村氏の

「匠の伝統の技と現代の知恵が我が家を再生してくれた」とのレクチャーがまさに目の前にあった。

## 大島さんと村松棟梁そして佐竹さんの心意気

町家再生の工夫あふ溢れる真新しい風呂をいただき、夜はお二方を囲んで町並み再生への深い思いを拝聴した。「今この年になりこの町のすべてが好きなんやということに気がついた」、「先輩の残した技に学び建物に新しい息吹を吹き込み次へ伝えるそこに喜びと誇りが」との言葉が耳に残る。佐竹さんの「ここでの生活を大事にしたい」との思いがこの人たちと出会い、今この家がある。ああ、この町はこうした人々に愛され育まれて今新しい時代を切り開こうとしている。町並み保存の名コンビとも言わうべきお二人にじかに会えた不思議な御縁を思う。個々の建物が生活の中に生き続けてこそ、その集合としての町が静かにしかも誇らしく存在する。

### 小浜こそわが国の歴史そのもの

早朝から常高寺を皮切りに滝天満宮、こしん庚申堂、高成寺等近くの町並みを散策、神社仏閣が軒を連ね、それを囲むようにしつとりと町が形成されている。大島さんの案内は、後瀬山地区はもとより明通寺、萬徳寺、神宮寺、国分寺とまさに小浜全体へと広がり、鵜の瀬で“焼きさばずし”の弁当をいただく。さらに多田寺、羽賀寺など、どこへ行っても国宝や重要文化財が待ち受けており、この狭い空間にこれほどの文化の集積があることに驚愕する。きょうがくなんとなくあこがれていた小浜が畏敬いけいの存在となった。



### 重要伝統的建造物保存地区指定おめでとう

6月文化庁のホームページを見る。9日に小浜市小浜西組伝統的建造物保存地区に新規指定の文字。「中世の港街から発展した近世城下町の商家町と茶屋町」との見出し。大島さん、村松さん、小浜のすべての皆様おめでとうございます。また福村さんにお世話になりながらぜひ通い続けたいと思います。

## 小浜西組町並み協議会



## 小浜西組～寺社巡り～⑤

はちまんじんじや

# 八幡神社 (小浜市・小浜男山)



小浜八幡神社は今から1200年ほど前の神護景雲3年(769)に創建された『続日本紀』所載の古い神社です。この小浜西組の発展の中心となった神社で、地域の氏神様でもあります。古くから放生会が行われており、その祭礼が現在も毎年9月に盛大に続いています。

放生祭での西組各区の出し物は次のとおりです。

男山区は獅子。鹿島・白鳥区は神楽。浅間・貴船区は山車。飛鳥区も山車ですが、子供たちがこの山車で舞を披露するため、三丁町の山車として人気があります。香取区は神輿。放生祭の唯一の神輿で、もともと八幡神社にあったものを譲り受け、巨額を投じて修理をしてお祭りの出し物としています。今年は大改装をして絢爛豪華な神輿を見ることができました。大原区は大太鼓ですが棒振りの人、子供が履いている草履は藁製ではなく布製の草履で、区内の女性達の手作りです。丈夫で長持ちするそうです。今年の奉納は終わりでしたが、手作り草履を見逃された方はぜひ2年後の出番を楽しみにしてください。

